

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	連携カリキュラムの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・連携カリキュラムの実践 ・連携担当者会議の開催 ・「いきいきスクール」の開催 ・学校事務の共同実施 ・3校合同研修の開催 ・合同授業研の開催 ・3校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校との連携 ・教材の交流 ・児童・生徒の交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携カリキュラムの検証と改善 ・連携担当者会議の開催 ・「いきいきスクール」の開催 ・学校事務の共同実施 ・3校合同研修の開催 ・合同授業研の開催 ・3校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校との連携 ・児童・生徒の交流 ・各校の取組みの交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携カリキュラムの総括 ・連携担当者会議の開催 ・「いきいきスクール」の開催 ・学校事務の共同実施 ・3校合同研修の開催 ・合同授業研の開催 ・3校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校との連携 ・児童・生徒の交流 ・各校の取組みの交流
確かな学力の育成	授業規律・学力保障の推進	<ol style="list-style-type: none"> 1 落ち着いた気持ちで臨める授業作り <ul style="list-style-type: none"> ・学びと学びあいのある授業作り ・学ぶ姿勢の改善 2 授業10か条の活用 2 研究授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲を高める研究授業 ・協働化と全員参加の授業を目指す。 3 家庭学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な宿題内容の研究 ・保護者との連携 4 基礎学力を獲得するための「読む力」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・躰きの発見、育成方法の研究 	<ol style="list-style-type: none"> 1 落ち着いた気持ちで臨める授業作り <ul style="list-style-type: none"> ・前年の授業作りの検証と改善 ・学ぶ姿勢の改善 ・授業4か条内容の検証 2 研究授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲を高める研究授業。協働化と全員参加の授業の検証と改善 ・授業のユニバーサルデザイン化を目指す 3 家庭学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な宿題内容の研究 ・課題を出し切る取り組み ・保護者との連携 4 基礎学力を獲得するための「読む力」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・学力カルテの作成と活用 ・育成方法の研究と実践 	<ol style="list-style-type: none"> 1 落ち着いた気持ちで臨める授業作り <ul style="list-style-type: none"> ・前年の授業作りの検証と改善 ・学ぶ姿勢の改善 ・授業4か条内容の検証 2 研究授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲を高める研究授業。協働化と全員参加の授業の検証と改善 ・授業のユニバーサルデザイン化を目指す 3 家庭学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な宿題内容の研究 ・課題を出し切る取り組み ・保護者との連携 4 基礎学力を獲得するための「読む力」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・学力カルテの作成と活用 ・育成方法の研究と実践
豊かな人間性を育む	人権感覚・共に生きる心の育成	<p>※お互いの違いを認め合う、仲間を大切にする生徒の育成 三年間を見通した学習内容を行う (全校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和学習・人権講演会 ・一年→国際理解 ・二年→部落問題・職業体験 ・三年→生き方(進路) ・三学年共通→命の学習(食育)・障がい者理解・クラスミーティング・キャリア教育 	<p>※お互いの違いを認め合う、仲間を大切にする生徒の育成 三年間を見通した学習内容の充実 (全校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和学習・人権講演会 ・一年→国際理解 ・二年→部落問題・職業体験 ・三年→生き方(進路) ・三学年共通→命の学習(食育)・障がい者理解・クラスミーティング・キャリア教育 	<p>※お互いの違いを認め合う、仲間を大切にする生徒の育成 三年間を見通した学習内容の精選・充実 (全校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和学習・人権講演会 ・一年→国際理解 ・二年→部落問題・職業体験 ・三年→生き方(進路) ・三学年共通→命の学習(食育)・障がい者理解・クラスミーティング・キャリア教育

<p>健康・体力の増進</p>	<p>体力調査の各項目をバランス良く伸ばし子供の基礎体力向上につなげる。行事やレクレーションなど意欲的な活動を通し最後までやり遂げる力。達成感、そして体力向上につなげる。食育を教科学習として行う。PTAの協力による啓発活動を行う。</p>	<p>昼休み運動場での活動を奨励。行事等を通していきいきと生徒が活発に意欲的に活動をする。体育委員を中心に授業はじめの体操・トレーニングにより、補強運動や筋力トレーニングを行い、基礎体力や体力向上させる。体力診断テストの結果から、生徒状況を把握し、授業改善に努める。生徒自身に自分の体力を知らせ、体力向上への意識づけを行う。</p>	<p>体力調査4項目以上で全国平均並みにする。食育の充実(教科学習、委員会活動、部活動等で行う) 家庭での食事、運動について協力を得る(啓発活動)。体育の授業での運動量の充実。部活動の一層の推奨。</p>
<p>支援教育の充実</p>			

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

**(領域ごと)**

- | | |
|------------|-----------|
| ①話すこと・聞くこと | 良好な結果であった |
| ②書くこと | 良好な結果であった |
| ③読むこと | 良好な結果であった |
| ④言語事項 | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-----------|
| ①選択式 | 良好な結果であった |
| ②短答式 | 良好な結果であった |
| ③記述式 | 良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問 ①-問1、
- ・もっとも正答率の低かった設問 ③-問2
- ・もっとも無解答率の高かった設問 ③-問2
- ・もっとも無解答率の低かった設問など ①-問1

分析

国語において、全ての項目で全国を上回っていた。文章の読み取りの力や、漢字の読み書きは、概ね良好な結果であった。これは、授業において、漢字・語句プリントを使っての復習や家庭学習を促す課題を実施することにより、基礎的な知識の定着、関心・意欲を高めていることがよい結果につながっていると思われる。

しかし、情報を読み取る課題において、目的に応じた文章を書くために内容を整理したり、相手に伝わるように書く力が、他の分野より低い結果となっているため、定期テスト等で百字作文を出題したり、グラフや新聞などから情報を読み取る課題をするなどを通して表現力、読解力を高めることが必要であると思われる。

〇●数学●〇

(領域ごと)

- | | |
|---------|-------------|
| ① 数と式 | 大変良好な結果であった |
| ② 図形 | 良好な結果であった |
| ③ 関数 | 良好な結果であった |
| ④ 資料の活用 | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ② 短答式 | 大変良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 大変良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問…1
- ・もっとも正答率の低かった設問…6-(1)
- ・もっとも無解答率の高かった設問…8-(2)
- ・もっとも無解答率の低かった設問
…1, 3, 6-(1), 7-(2), 8-(3), 9-(3) (0%)

分析

良好な結果であった。特に「数と式」「関数」の領域、「数学的な技能」の観点で、全国平均を大きく上回っていた。

正答率の低かった設問の代表的なものは、関数で「冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、2点のy座標の差が表すものを選ぶ問題」「2種類の冷蔵庫の総費用が等しくなる使用年数を、関係式やグラフを用いて説明する問題」資料の活用で「資料の傾向について説明した文が適切でない理由をヒストグラムの特徴から答える問題」「資料の傾向をつかむために必要な代表値を選ぶ問題」であった。この4問の中で記述式の問題では、2つのポイントのうち1つしか触れられず、説明不足になっているものが多かった。また、選択式の問題では、資料やグラフを読み取り、事象に即して解釈する力が弱いと思われる解答が多かった。昨年度に引き続き、自分で考え、その考えを数学的な表現を使って説明する(文章を書く)問題に接する機会を増やし、自分の意見を発信できる力をつける授業づくりを今後も推進していく必要がある。

総合的には数値は高く、無解答率も低い。中学1年では習熟度別分割授業を行い、3年間を通して学習サポーターが授業に入り込み、多くの目で支援していることが、数学の苦手な生徒の「あきらめずに頑張ろうとする姿勢」につながっていると思われる。毎週水曜日の放課後には学習会を行い、定期的にわからない勉強を教えてもらえる体制ができている。また、学年体制で放課後や長期休み中にも学習会を開いている。

教科担当も、単元ごとに提出物のチェックや、確認テスト等を行い、日頃の努力を評価しながら、基礎学力の定着を図っている。

○●英語●○

(領域ごと)

- ①聞くこと 良好な結果であった
- ②話すこと 概ね良好な結果であった
- ③読むこと 良好な結果であった
- ④書くこと 大変良好な結果であった

(問題形式)

- ①選択式 良好な結果であった
- ②短答式 大変良好な結果であった
- ③記述式 良好な結果であった

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もともと正答率の高かった設問 $\frac{1}{10}(2)$
- ・もともと正答率の低かった設問 $\frac{10}{4}$
- ・もともと無解答率の高かった設問 $\frac{4}{1}$
- ・もともと無解答率の低かった設問など

分析

英語において、全ての項目で全国を上回っていた。

聞くことに関しては、英語で授業を行ったり、クラスルームイングリッシュを日常的に使用して、生きたコミュニケーションのやりとりを行っていることが良い結果につながっていると思われる。

読むことに関しては、文章の概要を理解したり、流れにそった会話を成立させるなど、よく理解できており、普段の授業でまとまった英文を読む練習を重ねている成果だと思われる。

書くことは、写真やイラストなどを参考に状況に合った英文を書くという内容で、正答率は高くないが、無解答率は低く、少しでも表現しようという意欲が読み取れる。

全体として、基礎的な力は備わっているが、やり取りの中で考えて解答する表現力などをさらに向上させることが課題と考える。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

国語、数学ともに（昨年度までのA・B問題を平均して）、昨年度に引き続き全国平均を上回った。これまでの取り組みの効果が上がり、数値につながってきていると考えられる。また、無解答率も昨年度よりも改善された。この姿勢が全体的に良好な結果に結びつけられている。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

学力高位層は昨年度に比べて減少が見られたが、依然全国平均を大きく上回っている。学力低位層は昨年度に引き続き改善が見られた。低位層向けへの取り組みの結果が表れていると考えられる。

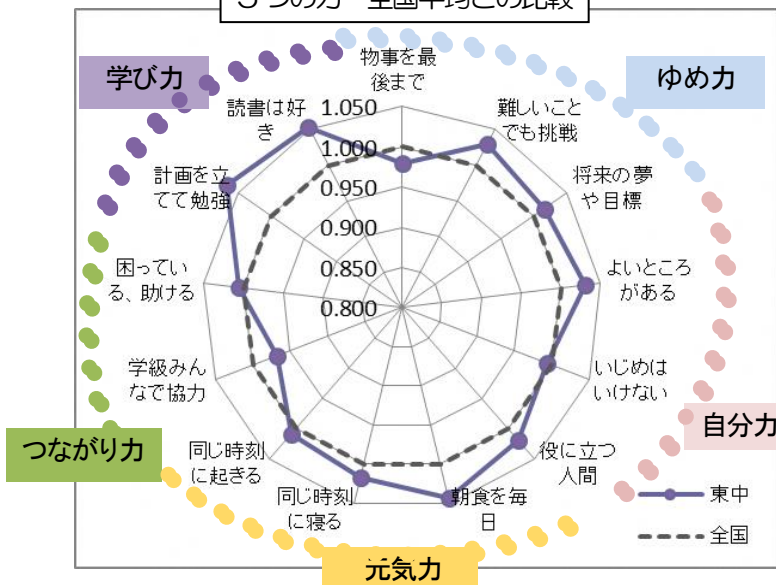
〇●取組み●〇

学力向上に関する取組み

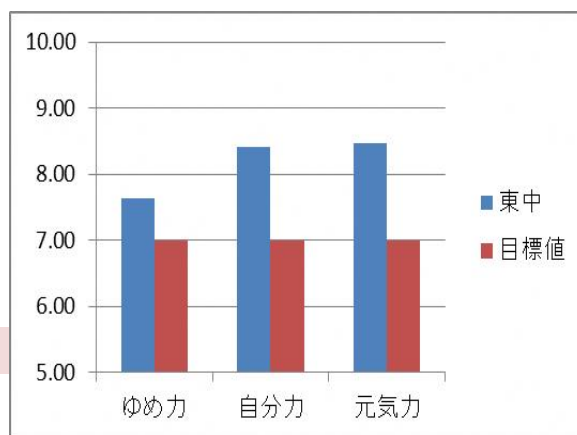
- ① 落ち着いた雰囲気です授業に臨める環境づくり
毎日を落ち着いた雰囲気です授業に取り組めるように、教員そして生徒の各委員会と協力し、授業規律の確立と改善、そして検証を行う。
東中学校授業4か条の活用
号令係研修会の実施と検証
- ② 授業改善の取組み
授業研究 学ぶ意欲を高め、学びと学びあいのある授業作りを目指す。
1年間に2回の研究授業を行う。
授業力向上研修の実施 よりよい授業を実践するため、新学習指導要領を見据えた評価について考える機会を持つ。
- ③ HIT(Higashi Intensive Time)の実施
HITとはテスト1週間前頃からMT後や学活の時間を使って各教科から基礎的な問題をプリントにし、個人や班で協力し定期テスト対策としておこなうものである。
- ④ 放課後学習会の実施
全学年で統一した学習会（週に1回）を放課後に行う。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較レーダーチャートは13項目、目標値との比較棒グラフは、3項目とも実施した『ゆめ力』『自分力』と『元気力』のみとなっています。

分析

昨年度に続いて、自分力・学び力ともに目標値に比べ、大幅に上回っている。「自分にはよいところがある」・「自分は役に立つ人間である」という項目は依然高い水準を保っている。さらに、学び力の中の「計画を当てて勉強をする」という項目は目標値と比べて大きく上回っている。宿題を含めて、自ら学ぶ姿勢を作っていく手立てを今後も立てていきたい。しかし、昨年度と比べ「将来の夢や目標がある」という項目が大きく低下した。具体的でなくても、生徒に将来に目を向けさせるような学校教育の実践が必要である。昨年低かった「いじめはいけない」の項目は人権・道徳教育やいじめ対策の取り組みにより改善された。

取組み

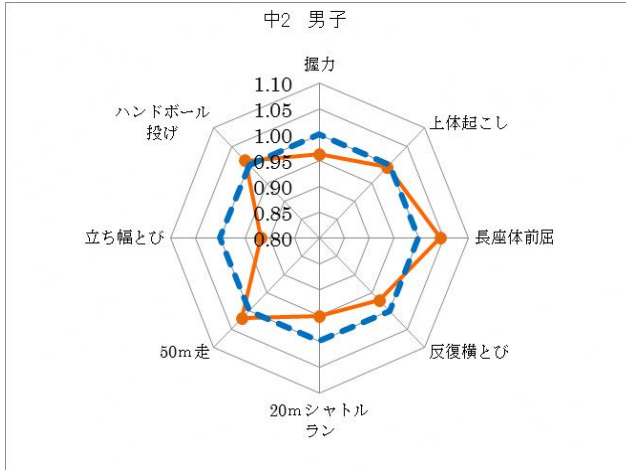
生徒の自分力や学び力、ゆめ力に値する項目は全国平均に比べ高く、自分自身との向き合い方や、学習への姿勢については、これからも意識を高く持てるように、指導していくことが大切である。「学級みんなで協力する」の項目が全国平均よりも低いことから、行事だけでなく、普段の授業の中でも、学級集団としての価値づけをしていく必要がある。教師主導で物事を進めるのではなく、生徒主体で学級活動や行事を運営していくことを学校全体として取組んでいきたい。

また、「物事を最後まで取り組む」の項目が全国平均を下回っているため、テストへ向けて立てた計画等を最後までやり抜くことができるように仕掛けを作っていくことが必要とされる。またその中で、最後までやり切ったことによる達成感も感じることができるようしていきたい。

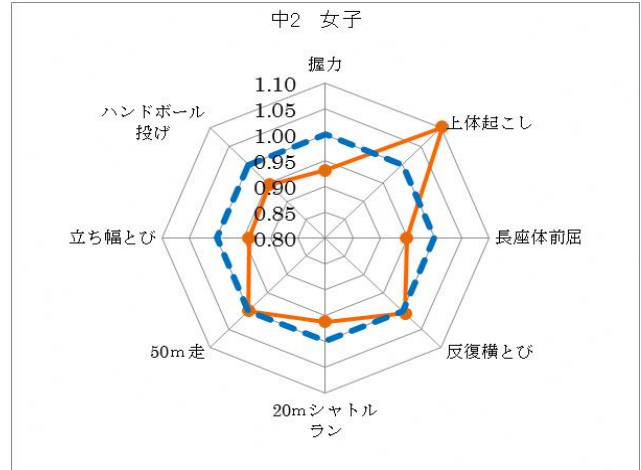
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

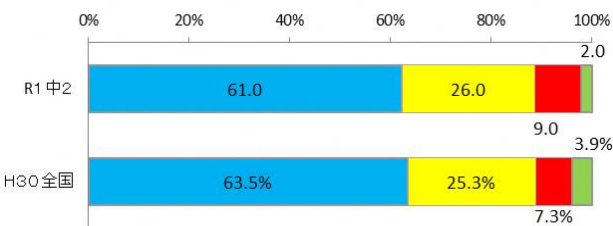
男子 (中2)



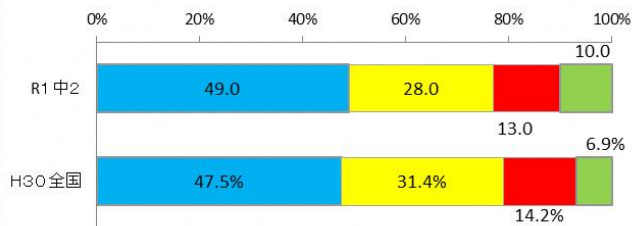
女子 (中2)



運動・スポーツが好きですか(中2男子)



運動・スポーツが好きですか(中2女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

分析

- 男女とも握力、立ち幅跳び、シャトルランの結果が全国値より下回っている。
- 男子の反復横跳び、シャトルランが昨年度より低くなり、長座体前屈が昨年度より高くなっている。
- 女子の上体起こしは昨年度同様、全国値よりも大きく上回っているが、長座体前屈においては下回っている。
- 女子の立ち幅跳び、シャトルランが昨年度より低くなっている。
- 「運動が好き」という項目において、男女とも昨年度より割合が高くなっている。(男子 14%増加、女子 7%増加)
- 「運動が嫌い」という項目において、男子は5%減少したが、女子は7%増加した。

取組み

- 昨年同様、昼休みにグラウンドでボール遊びをはじめとして、外に出て活動することを奨励し、気軽に体を動かすことのできる雰囲気づくりをする。
- 授業はじめの補強運動やストレッチの内容に、意識をより高めていく。
- 持久性のある動きを、楽しくやる気を持って取り組める工夫をしていく。
- 家庭・地域と連携して、体力向上や食育にも取り組み、健康な体づくりができるようにする。